

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500513		
法人名	社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム桑の実		
所在地	宮城県気仙沼市唐桑町只越346-19		
自己評価作成日	平成25年 9月 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの運営主体は社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会で、気仙沼市からの指定管理を受けて運営しています。本施設は宮城県気仙沼市の北の端に位置し、唐桑町福祉の里、保健福祉センター(燦さん館)、特別養護老人ホーム等の各施設立ち並ぶ中にあり、自然環境も豊で、周りが海と山に囲まれに恵まれ四季折々に楽しみを持って生活出来るところです。当施設では近隣各施設との交流や地域住民に協力を得ながら日々楽しく笑顔で生活しています。また、ボランティア団体からのご支援とご協力もあり、利用者・職員ともに生き活きと笑顔で暮らせる場となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ったすぐのところに阪神淡路大震災で被災した尼崎のホームの入居者から激励の手紙が添えられた千羽鶴が飾られている。ホームの理念は「我が家づくりを目指す」こと。たまには冗談も言い、自然と笑いが出てくるようなケアで信頼を得ている。入居者は、広く明るい食堂に集まってテレビを見たり、歌を聞いたり、おしゃべりが絶えない。掃除、調理、洗たく物干しなど、入居者に出来る事は何でもして頂いている。また家族からの意向で「生きがいでから」と毎日、草取りをしている入居者もいる。現在の健康の維持と自立支援に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関しては、社会福祉協議会で支援している。職員は、地域で行っている講演会や研修会に出来るだけ参加し、学ぶ機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約を結ぶ際、利用者及び家族には、重要事項説明書を基に十分な説明をするとともに不安な点・疑問点については、ご質問をいただき納得・理解を図るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、管理者や職員に対して自由に意見や思いを言える雰囲気づくりをしている。意見・不満・苦情等があれば、お話していただき、直ぐに検討しケアや運営に反映している。	面会に来た時や定期的な通院の時、電話をした時に意見や要望を聞いている。「太ったので散歩の回数を増やして欲しい」などの意見があり、ケアプランに反映し、体調に合わせて散歩の回数を増やした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見や提案については、その都度聞くように努め、月1回定期的にスタッフ会議で議題を検討し改善に勤め運営に反映させている。	「居室の洗面台は水しか出ないのでお湯を出して欲しい」や「玄関のところに洗面所を作ってほしい」などの意見が出て、スタッフ会議で検討している。また介護福祉士受験のための休暇や合格後の待遇の支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境について、代表者は常に職員の努力や実績を把握し、職場環境の整備に勤め、職員がやりがいや向上心を持って働ける職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員研修や資格の習得について積極的に推奨している。参加可能な研修会等の機会があれば勤務調整を行い参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼介護サービス連絡協議会に加盟して、年に数回開催している研修会・勉強会に参加。相互のイベント等に参加したり活動を通し他ホームと交流の機会を持ち、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人と関わりを持つ方からの意見も参考にし、本人の要望、困っていることや不安に思うこと等を聞く機会を持ち、出来るだけ本人の思いに添うようにし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホームを見学に来た時には、今の現状や困りごと不安なこと、求めていること等をよく聴き、本人の生活状況を自宅に出向き確認したり、信頼関係を築くようにして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今、どのようにしてほしいかを伺い、どうしたら本人にとって一番良いのか検討し、本人と家族が安心できる対応・支援を見極め、他のサービスも視野に入れ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の得意なことや興味のあること等を日々の生活の中や会話を通し知ること、共に活動したり教えられたりしている。又、常に感謝の気持ちを持ち、言葉や態度に出すようにし、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の時には、連絡事項だけでなく本人の現状報告や家族の悩み・希望等を良く聴き受け止めるように対応。又、ホーム側からも相談したりすることで、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で、馴染みの人や場所を訪ねたり、会話の中に話題として出すことで記憶に残るよう配慮し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に生活していた場所や仮設に住んでいるお姉さんの所を訪ねたり、遠くにいる友人が逢いに来たり、家族が来て親戚の家に連れて出掛けるなど関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で手芸を教え合ったり、歩行が不安定な方の食器を片づける等、利用者同士で支え合えるよう職員が橋渡しをして、お互いの関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、顔を合わせた時には、気軽に挨拶したり近況を聞いたりし気軽に声を掛け合ったり、必要に応じ相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を受け入れ、その意見をスタッフ会議等で検討し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添うようにヒューマンパーソンドケアを意識して検討・実践している。	日々の関わりの中で「お父さんの顔が見たい」など話してくれるので家族の理解を得て会いに行っている。また「編み物をやりたい」という方が何人か居て、ホームで材料を準備して職員が先生になって教えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、生活歴やこれまでの暮らし方を聴いて、生活様式が極端に変わることがないように情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状把握について、一日の過ごし方を生活記録にまとめ、連絡ノートを活用し職員間で把握、身体状態においては、バイタルチェック表を記入することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と話し合いを持ち、情報・意見を取り入れ、個別に介護計画を作成している。職員がモニタリングを重ね、家族や関係者の面会時等に、意見や要望を聞いて新たな介護計画に反映し作成している。	入居時の聞き取りや生活歴、言葉や行動から知り得た事、家族の希望、医師の意見を参考に月1回のモニタリングで状況を振り返り、全員で話し合いケアプランに反映させているが、年に1回の見直しに終わっている。	本人及び家族の状況は刻々と変化しており、現状と介護計画がかみ合わない状況が起きないように、必要に応じて年に2回以上の見直しを行い家族の同意を得るようお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活の様子を生活記録に記入し、日勤者と夜勤者共に、引き継ぎの時に利用者、一人ひとりを具体的に情報の申し送りで共有して職員全員で実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの生活を支えるために事業所以外の施設や市役所の機能を生かしたサービスを出来るだけ取り込むようにしている。また、訪問診療や介護用品の使用をうまく活用できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1～2回、ボランティア(コスモス会)が来て、会話、工作、手芸、調理や畑作業と一緒に手伝ってくれる。又、広報誌を地区の担当者が利用者一人ひとりに届けてくれている。必要に応じ地域の方の協力を頂き、暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方々全員、かかりつけ医を受診している。必要に応じて、整形外科、眼科等本人の意向で受診している。受診の際は、バイタル表に本人の状態を記入した書類を渡して適切な医療を受けられる支援をしている。	状況を説明し、家族、医師、職員との話し合いで病院を決めている。体調が悪く精神科を紹介されて精神科に代わった入居者もいる。協力医には歯の治療やインフルエンザの予防接種の時などに受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者についての気付きや体調不良を起こした時は同法人内に勤務する看護師に相談や助言をいただき、適切な処置・対応を受けられるよう連携体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時や退院時は、管理者又は計画作成担当が病院に行き、入院までの経緯の説明をしたり、医師より注意点等を聴いて情報交換や相談に勤め、病院との良い関係づくりに勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した時や終末期のあり方については、家族に事業所として出来ることを十分説明し、治療が必要な時は、すぐ家族と連絡を取り、医師等と話し合いを持ち、今後の対応を決め出来るだけ要望に添うように支援に取り組んでいる。	重度化してから次の施設が見つかるまでこのホームに居たことがあり、家族や医師とも相談して対応しているが、重度化や終末期に対する指針が作成されていない。	「入居者様が重度化、急変した場合における対応に係る指針」(案)は事務局(社会福祉協議会)に提出し、決裁を受けている状態であるが、早急に作成する事を願いたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行ってはいないが、消防署に普通救命講習を受講し、応急手当や救命技能の維持向上のため反復して講習を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では、年2回防災訓練を実施。市や消防署の協力を頂き、地域住民や近隣施設参加の訓練も実施している。地域住民には、ホームの現状説明を行い協力体制を築いている。	夜間想定時の避難訓練の結果「人命が最優先なので避難場所への誘導を素早く、一人で出来るようにする事」が課題となった。また震災後、備蓄はホームのほかに隣の「燦々館」に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員で、一人ひとりを尊重し、行動や言動に対して否定をしないよう心がけている。また、一人ひとりの居室に入る際には本人の了解を得て出入りするようし、プライバシーを損ねない対応をしている。	近くへの散歩や畑の草取りに出かけるときに「気を付けて行ってらっしゃい」と快く送り出し、「雨が降ってるから駄目」とか「風が強いから駄目」とは言わないようにするなど言葉かけに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、思いや希望を表した時には傾聴し、出来るだけ思いをかなえられるように支援している。言葉で表せない方は、職員がいくつかの選択肢を用意し選んでいただいたり、ゆっくり考えていただき自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、一人ひとりのペースを大切に、起床・入浴・食事時間等を支援している。職員が強制するのではなく、散歩や買い物等も本人の希望があれば一緒に出かけられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に協力を得ながら、本人の馴染みの店に行き服装品を買い物したり、在宅で行っていた理髪店での散髪やパーマをかけたり、その人らしく装う事ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に、買い出し、調理、食事、片づけ等行い、楽しく食事をする雰囲気作りを心掛けている。一人ひとりにあった食べやすいメニューも工夫を凝らしている。(食事量・味付け・きざみ食・お粥等)	希望を聞いて職員がメニューを作り、法人内の管理栄養士に相談をしている。出来る力を活かし野菜の切り方や味付けなどをして頂いている。誕生日は好みを聞いて、料理を作るなど和やかな雰囲気ですべてしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成し、年に数回法人内の管理栄養士に栄養のバランスや食事量等の相談し調整している。水分量は、チェック表に記入し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアは、自分で歯磨きが出来た方については、声掛けと見守りを行い、介助が必要な方には職員が支援している。夜、寝る前に入れ歯をポリドントにつけ清潔保持に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録して失敗しないように声掛けしトイレ誘導する等、自立に向け支援している。	何かに夢中になっている時にトイレに行く事を忘れるので声掛けをすとか、出掛ける前に排泄を済ませるとかタイミングに合わせた誘導をしている。夜は一人ひとりにそれぞれ声掛けをして誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者によっては、病院から便秘薬の処方を受けている方もおり、排泄の状態を見て服薬調整したり、おやつにヨーグルトを提供、水分や食事(野菜を多く)の面にも配慮し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの意見を尊重して、入浴温度、入浴の順番、時間帯、洗髪、洗身の仕方等に配慮し、体調に注意し入浴を楽しんでもらえるように職員と、コミュニケーションをとりながらの入浴支援を心掛けている。	希望があれば何時でも入浴出来るようになっているが、2日に1回入浴している。拒否した人には声掛けの工夫で風呂に誘っている。入浴剤やしょうぶ湯、ゆず湯にしてゆっくり入浴して楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人になる不安を解消できるように、居室に付き添うようにしたり、家族の協力を頂き、電話で会話していただき、安心して眠れるよう支援している。又、ラジオを聞きながら休んでもらったり、豆電球をつけたりして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前・食後・一人ひとりタイミングを見ながら与薬している。夜勤者は、薬をセットし与薬を担当職員が薬を確認し服薬している。服薬後は、チェック表に記入し飲み忘れが無いよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(読書・カラオケ等)や特技(料理・裁縫等)を中心に活動を支援。その際、昔のこと等会話を交え回想しながら、共に楽しみや喜びを分かち合うようにし、ドライブ等で昔懐かしい場所に出かけ気分転換を図ったりして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に副い、馴染みの店に買物に出かけたり、頻繁にドライブに出かける機会を持ち、希望があれば家族や地域の方とも協力し、お花見や紅葉を見に出かけたりしている。	天気の良い日は一人ひとりの希望に合わせて散歩に出かけている。月1回のドライブは陸前高田の花見や五葉山の紅葉狩りなどに出かけている。また墓参りや家族との旅行など特別な外出は柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が十分自己管理できる方については小額を自分で管理していただき、自己管理できない方については小遣いを預かり、希望があれば、職員と共にお店に出かけ、買いたいものを選んだり支払いを支援したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望し、家族との会話を望む時には、いつでも電話で家族と会話できるよう支援している。また、手紙についても本人の要望により便箋や切手を準備してやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節感を意識して装飾品を準備し、利用者の皆様に飾り付けをしていた。また、共用空間の全てにおいて不快や混乱を招かないようチェックし、居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	居間兼食堂は24時間自動コントロールで換気が行われ、臭気や空気の上よみがない。玄関周りには季節を感じるもみじの壁掛けやガラスへの吹付、廊下の壁には折り紙や貼り絵などが飾られ、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも、椅子を置く等気の合う方々が少人数で過ごせる空間を配置している。また、相談室を利用者に開放し一人で過ごせるように居場所の工夫をしている。戸外にもベンチを置くなど外で季節を感じてもらえるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族にも相談し、入居以前に使用していた家具類をはじめ、身近なものを準備していただき居室に配備し、画一的な居室にならないよう、居心地良く過ごせる工夫をしている。	家族には馴染みの物を持って来てくれるよう働きかけている。部屋には自分で持ってきたテレビや家族の写真、位牌などが置いてあり、ゆったりと居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のADLに合わせ、居室内にポータブルトイレを設置したり、入浴時に浴槽台を活用したり安全に暮らせる工夫をしている。トイレや浴室、居室は表示方法を工夫し、自立した生活が送れるように勤めている。		